JAAF
Japan Association of Athletics Federations

陸連時報

2024 令和6年 12月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目　　次

■活動報告

◇みんなでつなごうリレーフェスティバル2024（リレフェス）大会報告

2024年10月5日（土）・6日（日）に開催しましたリレフェスは2022年に誕生し、今年で３回目の開催となりました。参加者の皆様に「陸上をする」楽しさだけではなく、「陸上をみる」楽しさを知り、今後も陸上の大会に足を運んでいただき、継続的に陸上にかかわってもらうことをねらいとし、トップアスリートと触れ合うことのできる企画を取り入れました。

◇日清食品カップ 第４０回全国小学生陸上競技交流大会報告

日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生650名および指導者185名、支援コーチ176名の計1011名が集まり、2024年9月21日(土)、22日(日)、23日(月)の3日間、東京･国立競技場で実施しました。

◇全国公認大会結果サービスのテスト運用を開始しました。

公認大会の結果をマイページに表示する「全国公認大会結果サービス」を、千葉、静岡、三重、滋賀、岡山、広島などいくつかの都道府県陸協にご協力いただき、先行テスト運用を開始しました。

■大会観戦ガイド

ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ･G1

◇福岡国際マラソン2024

◇令和６年度全国中学校体育大会 第32回全国中学校駅伝大会

■事務局からのお知らせ

リレフェスレポート：アスレティックファミリーが今年も国立に集結！たくさんのご参加ありがとうございました。

「東京2025世界陸上」開幕1年前スペシャル企画 織田裕二さんがスターターを務め、豪華メンバーでの「ドリームリレー」が実現！

RIKUJO JAPAN イベントレポート

information

・個人情報の共同利用について
https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/

・WRk対象競技会／広告規程について
https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/

・陸上競技場、長距離競走路の認定について
https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/

・代表選手派遣大会選考要項 2024年度
https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/

・代表選手派遣大会選考要項 2025年度
https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/

・アンチドーピング／鉄剤注射の防止
https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/

みんなでつなごうリレーフェスティバル2024（リレフェス）大会報告

【期日】2024年10月5日（土）・6日（日）
【会場】国立競技場
【実績】
〈実施種目〉全19種目（※日本選手権リレー同時開催）
◇公認の部
U16都道府県代表4×100mR
◇非公認の部
200歳以上／競技団体対抗／スポンサー対抗／
職場の同僚／推し対抗／ウォーキング／即席／家族／
誰でもチャレンジ／全力チャレンジ／
Night of the mile(4×400mR)／中高生／小学生／
電車になって走ろう／
レジェンドに挑戦!あの青春をもう一度／
でかパンツ／仮装
〈参加人数〉2日間のべ11500名

小さなお子様からお年寄りの方、ベビーカーや車いすで参加される方、初めて陸上競技場に足を踏み入れる方…今年も様々な方に参加いただき、たくさんの笑顔に出会うことができました。

◇する人（同時開催の日本選手権リレーを含む）
1日目　3260名／2日目2750名
◇みる人（観客、来賓、報道など）
1日目　2460名／2日目2020名
◇支える人（ボランティア、審判など）
1日目　480名／2日目580名

◆みんなが“笑顔”でつながるイベントを目指して

日本陸連の中長期計画（JAAFビジョン）では、2040年までにアスレティックファミリーを300万人とする目標を掲げています。子どもから大人まで、日頃から陸上を楽しむ人も、まだ親しみのない人も、多くの人が楽しめる『ウェルネス陸上の実現』を目指す中で、本イベントはその“きっかけ”を作る役割を果たすことをねらいとしています。

リレフェスは2022に誕生し、今年で3回目の開催となりました。舞台は、東京五輪が開催され、2025年に東京世界陸上の開催が決定している「国立競技場」。東京五輪のレガシーが、2025年、そしてその先の未来へとつながるようにという願いも込められており、今年は「東京世界陸上開幕1年前」記念として 東京世界陸上アスリートアンバサダーを務める北口榛花、サニブラウンアブデルハキーム、田中希実、橋岡優輝の4選手がチームを組んで走る特別レースも実施しました。

◆リレフェス後も陸上にかかわってもらえるように

3年目のリレフェスでは、参加者の皆様に「陸上をする」楽しさだけではなく、「陸上をみる」楽しさを知り、今後も陸上の大会に足を運んでいただき、継続的に陸上にかかわってもらうことをねらいとし、トップアスリートと触れ合うことのできる企画を取り入れました。

パリ五輪日本代表の8名のスペシャルゲスト（坂井隆一郎、飯塚翔太、柳田大輝、川端魁人、髙橋和生、岡田久美子、豊田兼、村竹ラシッド）や日本を代表をするトップアスリートが協力し、ファンとの交流会や能登半島地震の募金活動、トークショーなどを通して多くの方へ陸上の魅力を伝えました。

また、今年はリレフェスの普及を目的とし、各都道府県陸協からも審判を受け入れました。イベントのアイディアやボランティアによる運営のノウハウを共有することで、陸上を“支える”輪がさらに広がったと考えています。

◆笑顔を支えるボランティアチーム

たくさんの笑顔を支えたのは、230名を超えるボランティアの皆さんでした。当日は、受付、招集、チケットなど約60の部署にわかれて、幅広く活躍しました。リレフェス前には、ボランティア向けのオンライン説明会を行い、活動の心得や業務内容について理解を深めたうえで参加いただいたことが、当日のスムーズな運営につながったと感じています。

陸上の大会やイベントが、さらに多くの方々に楽しんでいただけるように、そして運営するスタッフも共に楽しめるように、審判・競技役員とボランティアの皆さまと一緒に、新しい運営の形を模索していきたいと考えています。

◆未来へつなぐ笑顔のバトン

今年もバトンをつないでくれた皆さま、笑顔をつないでくれた皆さま、本当にありがとうございました。これからも、する人・みる人・支える人（アスレティックファミリー）が1年に一度集まる場として、毎年その輪が大きくなり強く結びついていくことを願っています。

リレフェスに関わるすべての人々の笑顔、熱い声援、温かなアドバイスによって、成長を続けるリレフェスが今年も無事に終了しましたことを、心より感謝申し上げます。

リレフェス特設サイト

2日間のダイジェスト動画や思い出ギャラリー、参加者コメント、ライブ配信アーカイブなどをご紹介中です！ぜひご覧ください

https://www.jaaf.or.jp/relayfes/

～未来へつなぐ、笑顔をつなぐ～

日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会 報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会　ディレクター　岸　政智

日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生650名および指導者185名、支援コーチ176名の計1011名が集まり、2024年9月21日（土）、22日（日）、23日(月)の3日間、東京・国立競技場で実施しました。

1985年に第1回大会が開催されてから、今年は40回目の記念大会となり、国立競技場での開催は14年振りとなりました。監督会議は、9月13日（金）にオンラインで事前開催し、指導者研修会については第1日目の9月21日（土）に集合研修を行い、9月22日（日）の競技会終了後に指導者交流会を開催しました。日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

第1日目（9月21日・土曜日）～集合・前日フリー練習～

選手団は各地より移動し、国立競技場到着後まずはスタジアムツアーで競技場内を確認し、その後、順次フリー練習と写真撮影を行いました。指導者研修会では、徳田由美子氏（指導者養成委員会）から、ワールドアスレティックス（WA）が実施するキッズ向けプログラムに関する情報提供を行い、研修会の後半は、陸上の普及についてグループディスカッション形式のワークショップを実施。『「楽しい」「続ける」のコツ』をテーマに、キッズ向けの普及イベントについてディスカッションを行い、グループごとに発表していただきました。

第2日目（9月22日・日曜日）
～開会式・競技会・表彰式・フレンドシップパーティー～

開会式は、雨予報のため入場行進を行わず、選手団は観客席内の選手団席での参加となりました。日本陸連 尾縣貢会長が開会の挨拶、後援・協賛社を代表して公益財団法人 安藤スポーツ･食文化振興財団副理事長、日清食品ホールディングス株式会社代表取締役副社長・COO安藤徳隆様よりご挨拶をいただきました。続いて選手を代表して、群馬県代表の木暮昊さん、赤見大輝さんの２名から力強い選手宣誓が行われ、宇宙飛行士の野口聡一氏（カップヌードルミュージアム名誉館長）から選手団に向けて温かい、強い励ましのメッセージが送られました。

10時30分、女子コンバインドＡの80ｍハードルから競技が開始され、小学生アスリートは皆、真剣な表情でそれぞれの種目に挑戦しました。今大会では、女子コンバインドＡの山口葵生さん（長野）、男子コンバインドＢの藤澤けいさん（福岡）の２名が大会新記録を更新。コンバインド種目が導入されて6年目となりましたが、男女で記録を更新し40回の記念大会に華を添えました。

盛り上がったコンバインド種目では、ゲストナビゲーターとして第108回日本選手権女子七種競技のチャンピオンである熱田心選手（岡山陸協）に参加いただき、グランドレベルで各種目のポイントや心構えを解説し、選手たちの近くで声援を送っていただきました。

尚、競技会の模様は、NHK Ｅテレで9月29日（日）14時30分から16時00分まで、録画放送にて放映されました。また、競技結果は、日本陸連ホームページにて掲載されておりますのでご覧下さい。

今大会はパリ2024オリンピックで活躍したアスリートたちもプレゼンターとして参加。女子やり投の北口榛花選手（JAL:パリ2024オリンピック金メダリスト）、男子3000ｍ障害物の三浦龍司選手（SUBARU:同大会8位入賞）、女子長距離の田中希実選手（NewBalance：同大会1500ｍ、5000ｍ日本代表）が、入賞者に賞状・メダル・楯を授与してくれました。憧れのオリンピアンから表彰を受ける小学生たちはとても嬉しそうな様子でした。

写真提供：オールスポーツコミュニティ

競技会の進行と同時にコンコースでは「キッズデカスロンチャレンジ」（デカチャレ）を実施しました。デカチャレは、陸上をやっている子も、経験したことのない子どもたちも、気軽に「走る」「跳ぶ」「投げる」に触れ、楽しんでもらえるよう、日本陸連 指導者養成委員会が様々なメニューを作成し、実施しているプロ

グラムです。今回も出場選手をはじめ応援にきた兄弟や友だちに楽しんでもらうことができ合計200名近くの参加がありました。

すべての競技と表彰式終了後には、フレンドシップパーティー（閉会イベント）を実施しました。ゲストアスリートから小学生アスリートたちへの温かい応援メッセージを頂き、参加者全員での記念撮影、最後はゲストアスリートとのハイタッチで選手団は会場を後にしました。参加した小学生や指導者にとっては、憧れのアスリートとふれあい、一体感を得られる良い思い出になったことと思います。

また、今年度も47都道府県大会に参加した小学5・6年生から「小学生リポーター」を募集しました。

今回リポーターとなった6名は、ランチブレイクでのトークショーや大会の様子をリポートしSNSで発信するなどの活動を行いました。小学生リポーターからの報告は、日本陸連ホームページにも掲載していますのでご覧ください。

また競技会終了後、宿舎（新横浜プリンスホテル）での夕食後の時間を使用し、指導者交流会を実施しました。指導者の交流、情報交換の場として昨年度から設け、今回は約100名の指導者が参加。各地域の実情、中学校の部活動地域移行等に関する意見交換などが積極的に行われ、とても有意義な時間でした。

第３日目（9月23日・月曜日）
～ カップヌードルミュージアム 横浜見学・帰路 ～

選手団は翌23日、朝食をとり、「カップヌードルミュージアム 横浜」を選手団毎に見学して、帰路につきました。

今年度、日清食品カップ 都道府県大会には、計26,520名が参加しました。これだけ多くの小学生が参加しているのも、各都道府県陸上競技協会の方々の日頃のご支援、大会準備等、ご尽力の賜物と、感謝の気持ちでいっぱいです。

日本陸連では都道府県大会に参加したすべての選手達が、記録への挑戦という陸上の魅力を感じ、興味を持ってもらえるようにと、『My Record』を実施し、都道府県大会に出場した選手の記録（全国交流大会実施種目）を日本陸連のホームページに掲載しています。この取り組みが、参加した選手たちの励みとなり、今後自分の記録への挑戦や成長の足跡として参考にしていただければ幸いです。

また今年度、都道府県大会でのデカチャレ実施を募り、6会場（岩手・埼玉・千葉・茨城・新潟・京都）で実施されました。参加者は全体で587名、実施した会場の担当者からは、「子どもたちの多くの笑顔が見られた」や「今後も県内で積極的に実施を計画したい」等の声を聞くことができました。都道府県における参加者を増やし、大会を盛り上げるために、この活動はこれからも地道に続けていきたいと考えています。

本大会が終了する度に思うことは、当たり前のようにこの交流大会を開催できることに感謝するとともに、改めて大会開催の基本理念（小学生期の育成、交流・研修を中心に考える）を踏まえながら、「アスリート・センタード」を第一義とし、指導者の皆様の忌憚の無いご意見等を頂戴しつつ、更に良い大会にしたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、本大会に後援、協賛、協力をいただきました各社･各団体の皆様、そして主管の東京陸上競技協会、主会場となった国立競技場の皆様へ、心から感謝申し上げ、日清食品カップ 第40回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

写真提供：オールスポーツコミュニティ

全国公認大会結果サービスのテスト運用を開始しました

公認大会の結果をマイページに表示する「全国公認大会結果サービス」を、千葉、静岡、三重、滋賀、岡山、広島などいくつかの都道府県陸協にご協力いただき、先行テスト運用を開始しました。

アスレチックファミリーへのサービス提供を目指したシステム開発

日本陸連では、JAAFビジョン2017で設定した目標を達成するために、アスレチックファミリーへのサービス提供を目的としたシステム開発を、JAAF PROTEINという名称でプロジェクトを立ち上げ、2020年からおこなっています。プロジェクトでは「登録会員とのコミュニケーション」「活動履歴をライフログとしてアスレチックファミリーへ提供する」「都道府県陸協など運営者側の業務改善」の3つを主要なテーマとしてシステム開発をおこなっています。

「登録会員とのコミュニケーション」をおこなうことができるようにするために、まず会員登録システムのリニューアルをおこないました。旧登録システムでは、加入団体の管理者しかシステムにログインできませんでしたが、新登録システムでは、会員個人がシステムにログインできるようになりました。

「運営者の業務改善」をおこなうために、公認競技会の申請・承認システムの開発、広く都道府県陸協に使用していただける大会エントリーシステムの開発をおこなってきました。エントリーシステムに関しては、2022年度にテスト運用を開始し、2024年度は300大会を超える大会での利用が予定されています。全国大会でも日本選手権・U20日本選手権をはじめ、U18・16大会、全国小学生陸上、全日中のほか、全国都道府県対抗男子駅伝、女子駅伝でも使用しています。本エントリーシステムでは登録情報、記録情報とシステム連携しており、登録情報の確認作業の削減、参加記録の確認作業の軽減を実現しています。ご使用いただいた大会運営者、エントリーの利用者からは、申込作業が楽になった、確認作業が楽になったといったように、おおむねご好評をいただいております。

来年度以降、その他の全国大会でも利用が予定されており、ご利用いただく都道府県、大会が徐々に増えていく予定です。大会運営を行われている方は是非ご利用をご検討ください。

＊エントリー機能の利用料は無料です。決済機能を利用する場合、決済手数料をエントリー者が負担することになります。

全国公認大会結果サービス

「活動履歴の提供」のためのシステム開発はプロジェクトの大きな柱です。記録情報の管理、提供サービスの実施を予定しています。このたび、ベースとなる部分のシステム開発を行い、先行テスト運用を開始しました。

概要としましては、各都道府県陸協で大会結果をアップロードしていただくと、その結果を、会員がシステムにログインすることで見らえるようになっています。またアップロードしていただいた結果を名寄せして、それぞれの会員ごとの記録の履歴が見られるようになっています。

現在は千葉、静岡、三重、滋賀、岡山、広島など、開発にご協力いただいているいくつかの都道府県の記録だけが閲覧できる状況ですが、今後その他の都道府県陸協のみなさまへもご協力を依頼し、掲載される記録を全国に広げていきます。

またランキングなども見られるように開発していきますので、引き続きご期待ください。

是非皆さま、一度アクセスして、お試しください。

「全国公認大会結果サービス」の利用方法

日本陸連エントリーシステム（https://athleticfamily.jaaf.or.jp/user/login/）にログインし、「全国公認大会結果」メニューから都道府県、大会を選択することで閲覧できます。

大会一覧の結果欄に「表示」のボタンが表示されている大会の結果を閲覧することができます。各大会の結果の競技者名を選択すると、その競技者の2024年度の大会の参加履歴を見ることができます。

＊日本陸連エントリーシステムへのログインには、日本陸連会員登録システム（JAAF-START）にログインする際のメールアドレスとパスワードを使用します。学校の生徒、クラブの会員の方で日本陸連エントリーシステムにログインできない場合はJAAF-IDへのメールアドレスの紐づけ作業が必要になります。詳細は下記のQRコードからご確認ください。

日本陸連エントリーシステムへのログイン

登録者であるがログインできない場合

（JAAF IDへのメールアドレスの紐づけ）
＊アクセスコードは「start」です

＊競技者名を選択できない（青い表示になっていない）データは、うまく名寄せできていないデータです。

エントリーシステムにログインし、メニューの「全国公認大会結果」を選択、画面の右側から都道府県を選択、「結果」列に「表示」ボタンがある大会の「表示」を押すと、その大会の大会結果が表示されます。大会結果を表示し、「競技者名」をクリックすると、その競技者の2024年度の記録の参加履歴を見ることができます。

大会観戦ガイド

ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ・G1
福岡国際マラソン2024
東京2025世界陸上競技選手権大会
日本代表選手選考競技会

▼ 期日：2024年12月1日(日) 12時10分スタート

▼ コース：

福岡国際マラソンコース（平和台陸上競技場・大濠公園～福岡市西南部周回～香椎折り返し）42.195km

▼ アクセス：＜平和台陸上競技場＞

地下鉄「赤坂」「大濠公園」下車 徒歩8分

西鉄バス「福岡城･鴻臚館前」「福岡市美術館東口」「大手門･平和台陸上競技場入口」下車 徒歩5分～8分「赤坂3丁目」下車 徒歩10分

▼ 種目：

①マラソン ②ハーフマラソン ③30㎞ロードレース

▼ 問合せ先：

福岡国際マラソン実行委員会事務局

〒810-0053 福岡市中央区鳥飼3丁目3-12

TEL　092-733-8911

E-mail　info@fukuoka-international-marathon.jp

▼大会ページ：

https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1895/

写真：アフロスポーツ

写真：アフロスポーツ

令和6年度全国中学校体育大会
第32回全国中学校駅伝大会

▼期日：令和6年12月15日（日）

○女子の部スタート 11時10分

○男子の部スタート 12時15分

▼会場：

滋賀県希望が丘文化公園 スポーツゾーン芝生ランド

▼アクセス：

JR琵琶湖線 野洲駅南口より近江鉄道バス・希望が丘西ゲート経由「花緑公園行」または「村田製作所行」で約10分

▼種目：

（1）一校単位（一団体単位）で編成されたチームで女子と男子の部とする。

（2）女子の部（5区間 12km）第1区3km 第2区2km 第3区2km 第4区2km 第5区3km

（3）男子の部（6区間18km） 第1区 3km　第2区 3km　第3区3km　第4区3km　第5区3km　第6区 3km

▼問合せ先：

（1）大会開催前　〒520-0807 滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎 滋賀県教育委員会保健体育課分室内 全国中学校駅伝大会 実行委員会事務局

TEL：077-535-9080　FAX：077-535-9081

E-mail:ekiden-shiga@office.eonet.ne.jp

（2）大会期間中（直前の12月10日（火）～13日（金）含む）〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978番地 希望が丘文化公園内 令和6年度 第32回全国中学校駅伝大会 滋賀県実行委員会大会本部

TEL：080-8303-7874　FAX：077-535-9081

▼大会ページ：

https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1893/

事務局からのお知らせ

◇◆リレフェスレポート：アスレティックファミリーが今年も国立に集結！たくさんのご参加ありがとうございました◇◆

陸上経験やレベル、年代などの垣根をなくして、する人、見る人、支える人みんなでリレーを楽しむイベント「みんなでつなごうリレーフェスティバル2024」、通称「リレフェス」が、10月5～6日、第108回日本選手権リレー競技との併催で、今年も東京・国立競技場で行われました。

▼詳細はこちら
https://www.jaaf.or.jp/news/article/21125/

◇◆「東京2025世界陸上」開幕1年前スペシャル企画 織田裕二さんがスターターを務め、豪華メンバーでの「ドリームリレー」が実現！◇◆

「みんなでつなごうリレーフェスティバル」大会初日の10月5日に、来年9月に迫った『東京2025世界陸上』の開幕1年前特別企画として「東京2025世界陸上ドリームリレー」が行われました。

▼詳細はこちら
https://www.jaaf.or.jp/news/article/21121/

◇◆RIKUJO JAPAN イベントレポート◇◆

日本陸上競技連盟は、中長期計画JAAF REFORMの実現に向けて「RIKUJO JAPAN」プロジェクトを発足しました。そのコンテンツのひとつである陸上・スポーツイベントの様子をお伝えいたします。

▼詳細はこちら
https://www.jaaf.or.jp/rikujo-japan/event/

▼ JAAF REFORM
https://www.jaaf.or.jp/reform/

RIKUJO JAPAN

陸上でスポーツ界、ニッポンを変えていく

陸連時報編集委員

◇編集委員
尾縣　貢（陸連会長）
有森　裕子（陸連副会長）
風間　明（陸連副会長）
室城　信之（陸連副会長）
田﨑　博道（陸連専務理事）
山崎　一彦（陸連強化委員長）
鈴木　英穂（陸連事務局長）
石井　亮（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
平野　了
◇時報編集担当
日本陸連　広報

陸連時報編集室
〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869